

令和4年度 第3回呉市地域公共交通協議会

- 議 事 要 旨 -

日 時：令和4年12月9日（金）15時00分～16時30分
場 所：呉市役所本庁2階防災会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 委員紹介

4 議 事

- 議案第1号 呉広島空港線における特殊普通旅客運賃の改定について・・・【資料1】
議案第2号 地域公共交通確保維持改善事業の評価について・・・・・・【資料2】

5 報 告

- 報告第1号 令和4年度呉市生活交通の収支状況等について・・・・・・【資料3】
報告第2号 呉市における交通関連事業費について・・・・・・【資料4】
報告第3号 エアポートバス「呉広島空港線」の利用状況について・・・【資料5】

6 そ の 他

- ・広島県における公共交通の目指す姿について【広島県より説明】



(1) 議案第 1 号 呉広島空港線における特殊普通旅客運賃の改定について

発言者	発言要旨
■資料 1 について、事務局より説明	
江田会長	運賃改定の考え方については、事務局から説明のあったとおりであるが、ご意見、質疑があればお願いします。 ないようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一同	異議なし。
江田会長	異議がないようなので、議案第 1 号は承認されたものとする。

(2) 議案第 2 号 地域公共交通確保維持改善事業の評価について

発言者	発言要旨
■資料 2 について、事務局より説明	
江田会長	国の補助事業を活用して導入した福祉タクシーについて、事業評価を実施して中国運輸局に報告する必要がある、その内容に関する議案である。計画どおり福祉タクシーが導入され、適切に活用されたという内容であるが、ご意見、質疑があればお願いします。 ないようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一同	異議なし。
江田会長	異議がないようなので、議案第 2 号は承認されたものとする。

(1) 報告第1号 令和4年度呉市生活交通の収支状況等について

発言者	発言要旨
■資料3について、事務局より説明	
江田会長	令和3年10月から令和4年9月における呉市生活交通の収支が確定し、その内容と広島県への補助申請額に関する報告である。ご意見、質疑があれば願います。
塚井委員	今年度から収支率15%を下回った路線と従来からの路線があるが、何年間程度このような状態となっているか。
事務局	従来から収支率15%を下回っている路線のうち、安浦地区生活バスは令和3年度から、下蒲刈地区・川尻地区生活バスについては旧来から、北原神山峠線・仁方小須磨線については、令和元年度に広島電鉄から移管を受けた当初から収支率が15%を下回っている状況である。
塚井委員	収支率が低い状態が継続している路線について、見直しをどう考えるかということが協議会に報告することの論点であるので、引き続き記録を取っていただき、今後も定期的に報告していただきたい。
江田会長	他にご意見、質疑があれば願います。ないようなので、次の報告事項に移ることにする。

(2) 報告第2号 呉市における交通関連事業費について

発言者	発言要旨
■資料4について、事務局より説明	
江田会長	過年度からの交通関連事業費の推移についての報告であり、近年は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で利用客が減少しており、事業収支に大きく影響し、呉市における事業費も増加傾向となっている状況である。ご意見、質疑があれば願います。
塚井委員	航路に関して、事業者から乗客数の報告が上がってこないために、人数の記載がないのか。
事務局	乗客数の報告はあるが、金額のみの記載としていた。今後の報告では、人数も併記して報告する。
塚井委員	承知した。 新型コロナウイルス感染症の拡大による利用者の落ち込みは、完全に戻ることが難しいことはそのとおりであると考えているが、例えば陸上交通の経営支援補助金において、令和2年度と令和3年度を比較すると、令和3年度の利用者数が減少している状況であるが、その理由はなにか。
事務局	令和3年の利用者数は、令和2年10月から令和3年9月までの人数であり、最も新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった時期であったため、利用者数が減少している。
塚井委員	新型コロナウイルス感染症の影響は令和2年より、令和3年の方が影響が大きかったという認識でよいか。
事務局	そのとおりである。
江田会長	他にご意見、質疑があれば願います。ないようなので、次の報告事項に移ることにする。

(3) 報告第3号 エアポートバス「呉広島空港線」の利用状況について

発言者	発言要旨
■資料5について、事務局より説明	
江田会長	前々回の協議会において塚井委員からご指摘いただいた呉広島空港線の利用状況について、データ整理と追加で行ったアンケートの結果報告であり、利用者数は、コロナ禍前までは戻っていないが、少しずつ改善してきている状況である。

	平日と土日の差については、コロナ禍前と傾向は変わらず、土日の利用がやや多い状況である。また観光利用の増加や年齢層の変化などがアンケート結果から分かったという報告である。ご意見、質疑があればお願いします。
塚井委員	ビジネス利用が減り、観光目的が増えてきたことや年齢層に変化があったことは理解したが、観光目的の利用の場合、片道利用が多いといった傾向はあるか。
事務局	委員ご指摘の視点での分析は行っておらず、不明である。ただし、利用状況の項目では、片道利用より往復利用の方が多い結果となっており、さらにデータ分析を行っていくこととする。
塚井委員	承知した。 コロナ禍において、ある事業者が東京までバスを出して出張させていたという例があり、今後の方針として、そういった企業に対して呉広島空港線の利用促進やプロモーションができるのではないかな。 また広島電鉄が運営するモビリティについて、MaaS の考え方を取り入れて、観光施設の入場券と乗車券をパッケージで提供することができるが、モビリティのデータの分析において、仮に観光目的の方の利用が多いという傾向があったとすれば、呉市域の観光施設をプロモーションするきっかけになるのではないかな。そうするためには、データの分析を行うことや、データを然るべきところに提供することが必要であると考えている。
事務局	いただいたご意見を参考にして、データ分析を行っていく。 モビリティによる観光施設の入場券と乗車券のパッケージ販売について、現時点で呉市内の主要な観光施設との連携はできており、割引にも対応している状況である。
江田会長	他にご意見、質疑があればお願いします。
山根委員	本日は10月までの利用状況の報告であったが、11月の状況を補足すると、10月までと同様の傾向である。 アンケート結果にもあったが、ビジネス利用の低迷が利用状況低下の一因であると考えている。広島リムジンバスにおいても、同様にビジネス利用が伸び悩んでいるが、利用状況はコロナ禍前の7割を超えるところまで戻ってきている状況である。航空機の便数は、コロナ禍前と同じ就航便数になっているので、利用者の増加に期待したいところである。 モビリティについて、交通系以外との連携が進んでいない状況なので、施設との連携も実現できそうなものがあれば、利用促進に向けて検討していきたいと考えている。
江田会長	他にご意見、質疑があればお願いします。
神田委員	利用目的の調査結果において、「その他」と回答した38件の内訳はどのようなになっているか。
事務局	「その他」の内訳として、お墓参り・法事が3件、イベント参加が2件、その他コンサート、空港の見学、結婚式への参加などで、無回答が19件という内容であった。
神田委員	他の地域で空港線を通勤交通と捉える事業者が増えており、例えば房総半島から羽田を経由して横浜や新宿に向かうといった事例がある。安定した利用客を取り込んで採算を確保したという事例が多くはないがあるので、空港線を出張や観光利用だけではないといった捉え方が必要である。呉においても、停留所や経路の工夫などで新たな需要を取り込む余地があるのではないかな。また需要を取り込んで、かつ安定させるという視点で何らかの改善をすることも必要と考えられる。
江田会長	今後も呉広島空港線の利用状況を共有するとともに、運行のあり方について、引き続き協議会で検討してが必要である。 また観光振興のために、データ分析やそれに基づいた施策の検討も引き続き行っていきたいと考えている。

広島県における公共交通の目指す姿について【広島県より説明】

発言者	発言要旨
■【資料】広島県地域公共交通ビジョン「広島県における公共交通の目指す姿について」、広島県より説明	
江田会長	広島県の地域公共交通協議会で議論が進められている広島県地域公共交通ビジョンに関する報告である。国の有識者検討会から「地域交通のリ・デザイン」について提言が発出されたところであるが、その具体化に向けて国で法制度化・予算化が議論されている。呉市においても、現在の呉市地域公共交通網形成計画の計画期間が令和6年度までとなっており、改定に向けた準備を行っているところである。その中で国の動向や広島県の計画と方向性の整合を図りながら進めていきたいと考えている。 ご意見、質疑があればお願いする。
塚井委員	ワーキンググループにおいて、貨客混載について議論されているか。また鉄道をどこまで考えるかについて、議論の方向性があればお願いしたい。
広島県	貨客混載については、庄原で実施している事例等を参考にしながら、どう制度化するかに関しては、今後の議論が必要であると考えている。 鉄道に関する議論について、現段階では個別の交通モードではなく、全体のネットワークがどうあるべきかといった視点で議論を行っている。また、それぞれの地域の中で、どのような地域交通が必要であるかを検討している。今後の議論は必要であるが、現時点で方向性は出ていない。
塚井委員	承知した。県内の市町を類型化しているが、どのようなデータを参考にして類型化しているのか。
広島県	それぞれの地域の人流データを取得し、地域毎の滞在量を分析することで類型化している。
塚井委員	交通需要に関するデータを元にした類型化であると理解した。利用者数などの把握も必要だが、投入した交通資源を捕捉し、それがどの程度活用されているかを分析する観点も必要で、各地域の交通資源の分布と需要の実態が合わないところが問題だと考えるが、交通資源に関する議論や分析はされているか。移動需要分散型の地域ほど県が関与すべき地域になり得るため、交通資源の薄い地域をどう扱うのかという議論は重要だと考える。
広島県	供給面に関するデータは取得が難しいのが現状である。都市拠点型の地域と比較して中山間地域の方が問題の深刻度が増しているため、委員ご指摘の観点で分析していくことも必要であると感じたところである。
塚井委員	移動需要分散型の地域では、広島県と各地域・地区とで連携を図り、施策に関する議論を深めることが必要と考える。一方、都市拠点型の地域については、拠点であるため、より広い地域・地区との連携が重要となる。広島県には、類型化に応じた各地域の連携をサポートすること、施策が類型化による縦割りのものにならないようすることに留意していただきたい。
江田会長	他にご意見、質疑があればお願いする。ないようなので、以上ですべての議事を終了する。